



文化財愛護
シンボルマーク

八頭町文化財調査報告書 3

鳥取県八頭郡八頭町
平成20年度

町内遺跡発掘調査報告書

2009・3

八頭町教育委員会

序 文

本町の文化財保護行政におきましては、日頃より町民の皆様はもとより、多くの方々のご協力とご理解のもとに進めておりますことにつきまして、深く感謝申し上げます。

さて、本町は、私都川や八東川により造られた平野部が開けており、古墳や遺跡など多くの埋蔵文化財が存在する地域です。古くは縄文時代から人々が生活していたことが分かっており、私都川と八東川の両河川が合流する国中平野には、八上郡の郡衙跡と推定されている万代寺遺跡があるなど、古来より八頭郡の中心として栄えた地でもありました。

このように、数多く存在する貴重な埋蔵文化財を保護するためには、様々な開発事業に先立って、事前にその有無を確認したり位置を明確に把握したりするための試掘調査を実施する場合があります。

本書は、篠波地内真砂土採取事業、下峰寺地内急傾斜事業の計画に際し、平成20年度に開発区域と既登録の古墳との位置関係を確認するための試掘調査を実施し、その成果を報告書にまとめたものです。

発掘調査にあたり、ご指導・ご協力をいただきました鳥取県教育委員会文化財課、鳥取県埋蔵文化財センターをはじめ地元関係者の皆様に対しまして、深く感謝の意を表し序文といたします。

平成21年3月

八頭町教育委員会教育長 西山淳夫

例 言

1. 本報告書は、国庫補助事業として平成20年度八頭町内で実施された、発掘調査の結果をまとめたものである。
2. 発掘調査を実施した埋蔵文化財の所在、遺跡名、並びに調査原因は以下の通りである。
 - ① 八頭町篠波字上保木 篠波22号墳 真砂土採取に伴う試掘調査
 - ② 八頭町下峰寺字広畑ヶ 下峰寺12号墳 急傾斜事業に伴う試掘調査
 - ③ 〃 字後山 下峰寺16、17号墳 〃
3. 調査体制は以下の通りである。
 - ・調査主体 八頭町教育委員会 教育長 西山 淳夫
生涯学習課長 前田 健
社会教育主事 野田 大和
 - ・調査指導 鳥取県教育委員会事務局文化財課、鳥取県埋蔵文化財センター
 - ・八頭町教育委員会委嘱調査員
上田 哲夫（篠波字上保木）
道谷富士夫（下峰寺字広畑ヶ、後山）
 - ・調査協力者 澤田 純一、下田茂登子、竹内 英子、西村 浩一
八田 星代、古田 親憲、古田 浩一、森田 輝子
4. 本報告書で使用した方位は、真北である。
5. 標高は、海拔標高である。
6. 本報告書に掲載した地形図は、国土地理院発行の地図を使用した。
7. 本報告書の執筆、編集挿図の浄書は次の通りである。
 - 上田 哲夫（篠波字上保木）
 - 道谷富士夫（下峰寺字広畑ヶ、後山）
8. 発掘調査により作成された記録類、写真等及び出土遺物は、八頭町教育委員会が保管する。

凡 例

1. 本報告書における実測図は、図に付された縮尺による。
2. 本文、挿図、図版の遺物番号は一致する。

目 次

序 文

例言 調査関係者一覧・凡例

目次 挿図目次・図版目次

篠波字上保木試掘調査

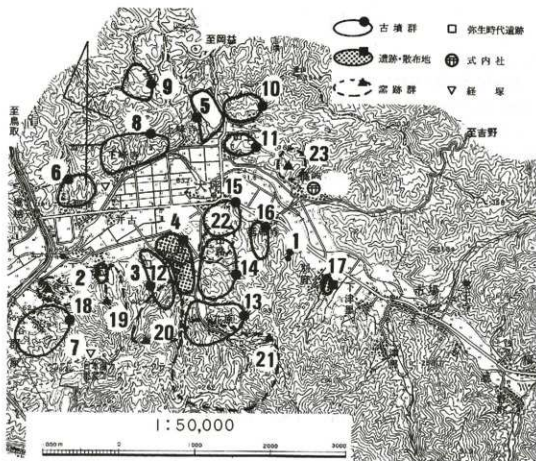
第1章 調査の経緯	2
第1節 調査に至る過程	2
第2節 調査の方法	2
第2章 調査の概要	2
下峰寺地内試掘調査	
第1章 調査の経緯	4
第1節 調査に至る過程	4
第2節 調査の方法	5
第2章 調査の概要	7

挿 図 目 次

第1図 周辺遺跡分布図	1
第2図 調査地位置図①	1
第3図 調査地位置図②	2
第4図 トレンチ配置図	3
第5図 トレンチ1土層断面図	3
第6図 調査地位置図	4
第7図 トレンチ位置図	5
第8図 トレンチ位置図	6
第9図 トレンチ断面図	7

図 版 目 次

図版1 (篠波字上保木)
図版2 ()
図版3 (下峰寺字広畑ヶ)
図版4 (下峰寺字後山)
図版5 ()
図版6 ()
図版7 ()



- | | | |
|----------------|-------------|----------------|
| 1. 下毛山古墳群 | 9. 上幹寺古墳群 | 17. 前田遺跡 |
| 2. 下坂墳丘墓 | 10. 奥山ノ上古墳群 | 18. 奥谷宮跡群 |
| 3. 下坂遺跡(銅鐸出土地) | 11. 口山ノ上古墳群 | 19. 下坂宮跡群 |
| 4. 山所遺跡 | 12. 山田古墳群 | 20. 山田宮跡群 |
| 5. 山ノ上通山道跡 | 13. 花原古墳群 | 21. 花原宮跡群 |
| 6. 新岡古墳群 | 14. 山路古墳群 | 22. 山路宮跡群 |
| 7. 富谷古墳群 | 15. 大塚古墳群 | 23. 藤波宮跡群 |
| 8. 下跡寺古墳群 | 16. 延命寺古墳群 | 24. 美無双神社(式内社) |

第1図 周辺遺跡分布図



第2図 調査地位位置図①

篠波字上保木試掘調査

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る過程

篠波字上保木遺跡は、八頭町篠波字上保木に所在する。ほぼ南から派生する尾根上に位置し、現況は山林となっている。今回、当該地の南から南東にかけて操業中の砕石業者が、真砂土採取範囲の拡大を計画し、八頭町教育委員会に採砂の申請がなされた。

この篠波地区には、篠波古墳群が存在し、平成14年度試掘調査により尾根北端の標高約143.3m付近に横穴式石室を持つ篠波22号墳が確認されている。今回の計画範囲では、篠波22号墳に影響は無いものの、篠波22号墳から平成14年度調査トレンチ1との間に微小な高まりがあり、何らかの遺構の存在が疑われたため、その確認作業を実施した。

第2節 調査の方法

平成14年度試掘調査トレンチ1の北端にトレンチの南端をあわせ、微小な高まりの南端にかかるよう1.0×6.0mのトレンチを1本設定した。

発掘作業は平成20年5月16日に行なった。総発掘面積は6.0㎡であった。

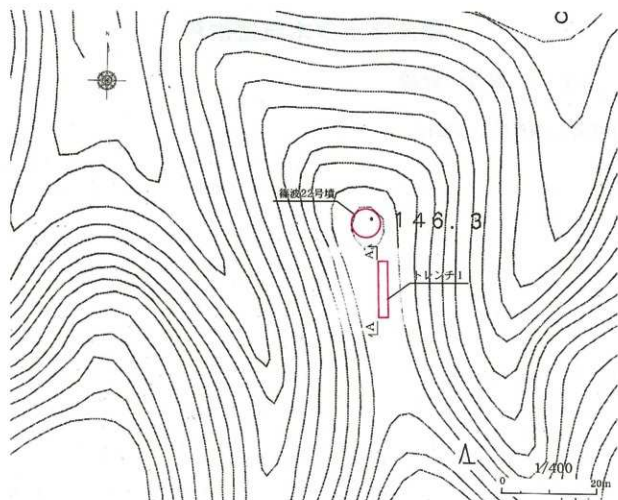


第3図 調査地位位置図②

第2章 調査の概要

トレンチ1

上面から約5～10cmの腐植土層がみられ、その直下に橙色土層(真砂土状地山)が分布する。遺構、遺物は検出しなかった。微小な高まりは、自然地形であると確認された。

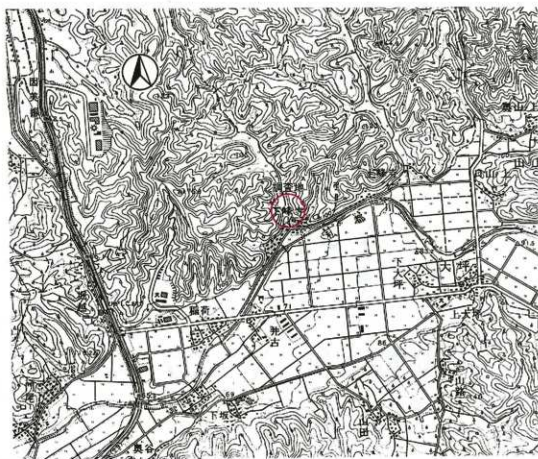


第4図 トレンチ配置図



第5図 トレンチ1土層断面図

下峰寺地内試掘調査



第6図 調査地位位置図

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る過程

下峰寺集落は、JR 因美線東郡家駅から直線距離にして北東約700mに位置し、集落の背後をやや急峻な山に囲まれ、南側を流れる私部川との間に形成された小集落である。隣接する上峰寺集落との境界には、薬師如来を本尊とする町指定文化財「峰寺薬師堂」があり、一般に「峰の薬師」と呼ばれ近隣からの信仰を集めている。下峰寺、上峰寺の集落名の由来は、この「峰の薬師」に起因するものと考えられる。

下峰寺地内には、横穴墓を含む約40基の古墳が確認されている。また、集落の南西尾根には5基の経塚も確認されているとともに、五輪塔石材等の集積による古墓も存在するなど中世遺構が多く見られる点に特徴があり、先に述べた「峰寺薬師堂」との関連性も考えると興味深い地域である。

この度の調査は、当該地域において急傾斜事業が計画され、防護壁を設置することに伴い既登録の下峰寺12号墳、16号墳（横穴墓）、17号墳との位置関係を把握するために実施した試掘調査である。

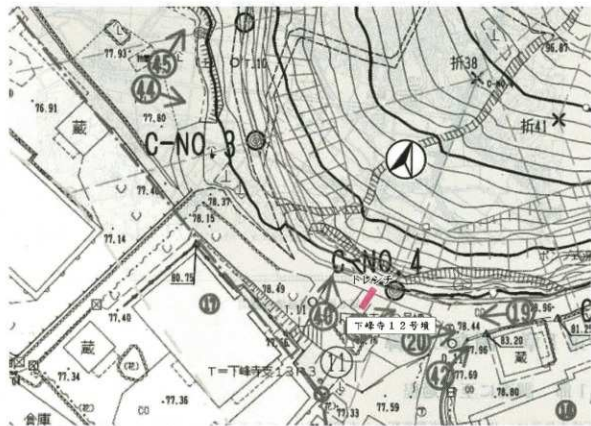
第2節 調査の方法

(1) 下峰寺字広畑ヶ

字広畑ヶには三つの古墳がある。そのうちの一つに「若宮さん」と称され、宝篋印塔、五輪塔が集積されている高まりがある。封土はほとんど流失し、墳形も不明であるが、一部石棺材が露出しており、これが下峰寺12号墳である。

この「若宮さん」と呼ばれる12号墳の南側は直近まで、宅地・住宅が迫っており、北側も山裾まで6m内外の狭い所であり、そこへ巾1.0mほどの部落道が通っている。

その狭い箇所へ部落道を含めて、巾1.0m、長さ2.8mのトレンチを設定し掘り下げた。



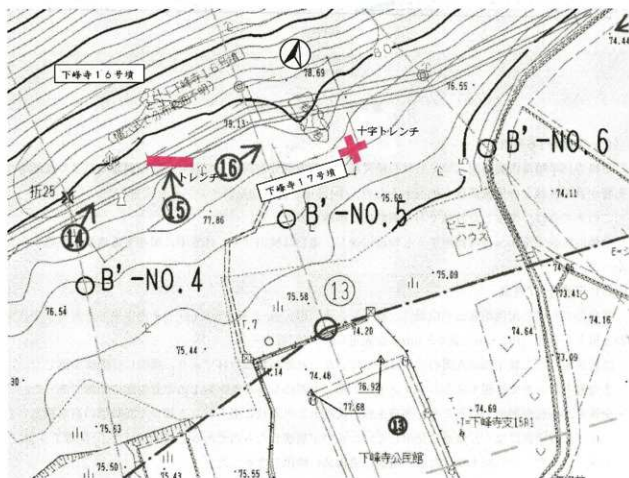
第7図 トレンチ位置図

(2) 下峰寺後山

下峰寺16・17号墳は、部落の中央あたり、通称「山の谷」と呼ばれる谷の入口の西側、部落公民館の裏の「後山」と呼ばれる竹林地帯に存在する。

16号墳は、17号墳の西方約20mに位置する横穴墓で、前側の部分が崩れ落ちて、玄室部の空洞が観察できる。(図版4-①②) また、17号墳は、横穴式石室の築石が全部露出し、羨道の石材と思われる石が下方一帯にみられ(図版5-①②③)、昭和44年版、郡家町誌に「下峰寺字後山1基、風化した流紋岩質の山の麓にある。」との記述がある。

これらの古墳の北方尾根の稜線上には数基の古墳が登録されているほか、南西の尾根先端部には、5基の経塚が確認されている。また、17号墳の北東約20mの山腹には、五輪塔石材等の集積による中世古墓が2基確認されている。



第8図 トレンチ位置図

第2章 調査の概要

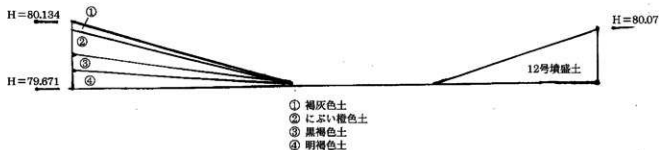
(1) 下峰寺12号墳

調査のための掘り下げは、古墳の北側、山との狭い場所に、部落道を含めて設定した。

トレンチの規模は巾1.0m、長さ2.8mである。

山側は、掘り下げ深さ36cm、古墳側は28cmで、部落道と同じ高さとした。

遺物は検出しなかった。



第9図 トレンチ断面図

(2) 下峰寺16号墳

下峰寺16号墳は山腹斜面につくられた横穴墓で、前方部分が崩落しており、急傾斜事業により掘削等で影響が及ぶ区域との位置関係を把握するため、巾1.5m、長さ10mのトレンチを設定した。

このあたりは、密生した竹林であり掘削には困難をきたした。

全体的に表土を10cm程度掘削すると地山に達し、遺物は検出せず、16号墳に関連する遺構も見当たらなかった。

(3) 下峰寺17号墳

露出した石室の南側約8mの位置に、横トレンチ(巾1.0m、長さ6.0m)とその中央あたりで十字に交わる縦トレンチ(巾1.5m、長さ5.0m)を設定した。(図版5-④)

設定箇所はここ数年間は人間の手がいっていないと思われる竹林であり、掘削には困難を感じた。

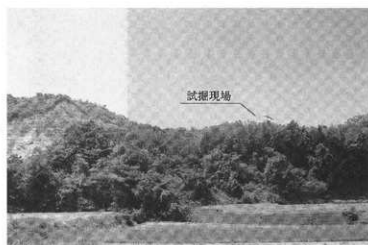
また縦トレンチで計測すると、トレンチの上部、下部のレベル差が約1mと急勾配の土地であった。

全体を20cm程度掘削したところ、羨道主軸の延長上と思われる横トレンチ部分で30数個の石を検出したが、並びに規則性はなく、羨道に使用していたものが崩壊したものであると結論づけた。(図版7-⑫)

発掘にはかなりの時間をかけたが、遺構、遺物共に検出しなかった。

圖 版

① 試掘現場遠景 北より



② トレンチ設定状況 北東より



③ トレンチ設定状況 南より





④ 表土除去後 南より



⑤ 完掘状況 南より



⑥ 完掘状況 (トレンチ北端部) 東より



①下峰寺12号墳 西より



②下峰寺12号墳 北より



③下峰寺12号墳トレンチ完掘
(左：山側、右：古墳側)

①下峰寺16号墳 南より



②下峰寺16号墳 南より



③下峰寺16号墳トレンチ設定



④下峰寺16号墳トレンチ完掘



①下峰寺17号墳玄門部 南より



②下峰寺17号墳現況 南より



③下峰寺17号墳開口部転石 北東より



④下峰寺17号墳トレンチ設定 東より





⑤表土除去後 北西より



⑥横トレンチ掘下中 南より



⑦トレンチ掘下中 北西より



⑧縦トレンチ下段集石 西より

⑨ 縦トレンチ上部転石 南より



⑩ 縦トレンチ上部 東より



⑪ 横トレンチ集石検出 南より



⑫ 横トレンチ集石完掘 南より



報告書抄録

ふりがな	へいせい20ねんど ちょうないいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	平成20年度 町内遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	八頭町文化財調査報告書							
シリーズ番号	3							
編集者	上田 哲夫・道谷 富士夫							
編集機関	鳥取県八頭郡八頭町教育委員会							
所在地	〒680-0601 鳥取県八頭郡八頭町北山63-1 TEL (0858) 84-1232							
発行年月日	平成21年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		緯度 ° ' "	経度 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
篠波 古墳群	鳥取県八頭郡 八頭町篠波 字上保木	313290		35°	134°	2008.5.16	6.0	真砂土 採取事業
			732	25'	18'	/		
				30"	34"	2008.5.16		
下峰寺 古墳群	鳥取県八頭郡 八頭町下峰寺 字後山	313290		35°	134°	2008.11.10	30.0	急傾斜事業
			234	25'	16'	/		
			238	50"	32"	2008.11.18		
239								
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
篠波 古墳群	古墳	古墳時代	ナシ	ナシ	ナシ			
下峰寺 古墳群	古墳	古墳時代	ナシ	ナシ	ナシ			

町内遺跡発掘調査報告書

平成21年3月 印刷・発行

発行 八頭町教育委員会

印刷 中央印刷株式会社
